弥厚さんの実像に迫る

～都築弥厚 特別展を前に～

問▶歴史博物館（☎〈77〉6655）

11月7日㈯より、歴史博物館にて「特別展 台地を拓く 都築弥厚の夢」が開催されます。弥厚は安城の偉人として広く知られていますが、実は、事実とは異なる様々な「伝説」が語り継がれてきました。本展では史実に基づき、弥厚の実像に迫ります。その一部を紹介します。

都築弥厚（つづきやこう）
（1765～1833年）

明治用水の基となる計画を考えた安城の偉人。水不足から争いの絶えなかった碧海台地の苦境を救うため、5年の歳月をかけて測量を成し遂げるとともに、幕府へ用水計画の嘆願を行った。志半ばで死去。弥厚の遺志は引き継がれ、完成した明治用水により、安城は後に日本デンマークと呼ばれるほど農業の発展を見た。

まずは、語り継がれている3つの「伝説」を読んでみてください。

一、都築弥厚が計画したのは、明治用水である。

二、都築弥厚は用水を通すことにより不毛の地を開拓しようとしたのに、知識のない農民たちが反対して計画は失敗した。

三、都築弥厚が歴史的に評価されているのは、矢作川の水を碧海台地に引くという、それまで誰も考えつかなかったアイデアの新しさからである。

どれも正しいように思えませんか？
次のページで、詳しく見てみましょう。

歴史博物館 学芸員
三島一信